

# 「災害を繰り返してはならない」「情報を甘く見るな」 何回もの現場調査に基づき、厳しく一般質問

私は27日、一般質問を行いました。今回は、市民の命と暮らしを守る立場から7月30日の集中豪雨対策、3月12日の長野県北部地震対策、原子力防災対策などをとりあげ、村山市長などに対策の強化を求めました。以下は質問の概要です。

## 南魚沼市同様、農家負担ゼロに！

【橋爪】今回の集中豪雨の被災地で何度も聞いた言葉は、「同じ場所と同じ被害が繰り返されている」という言葉だ。吉川区国田で床上浸水被害にあった3軒の家は、私が知っているなかでは、今回で少なくとも3回目の床上浸水だ。大島区足谷の市道足谷入場線とその周辺の田んぼ、用水路被害も3回目と聞く。きちんとした対策をとっていないからこういうことになる。しっかりと検証し、対策を立てるべきだ。

【村山市長】災害復旧は原形復旧が原則だが、

国土交通省においても今回の復旧にあたって、被災の原因となった施設の改良なども一定の条件のもと、災害関連事業として認められることとされており、新たな対応が可能としている。市としても、被災の原因を十分検証し、地元の皆さんのご意見をお聞きしながら、国及び県と協議を重ね、原形復旧にとらわれることなく、復旧工法を決定してまいりたい。

【橋爪】今朝の新聞報道によると、南魚沼市では、農業災害復旧工事を進めるにあたり、農家負担をゼロにするため、予算を組むということだ。当市でもそのように支援できないか。

【川上農林水産部長】激甚災害ということでは一定のかさ上げもされている。個人財産ということとで一定の枠組みがある。そのなかで最善の対応をと考えている。小災害についても出来る限りの手当てをしている。いまは枠組の中でこれまでのものを含めながら対応していきたい。

【橋爪】被災者の中にはぜひひとつと支援をとという強い声がある。ぜひひいてもらえないか。

【村山市長】災害は農地災害だけではない。家屋等、一定の負担をいただながら対応している。ご理解いただきたい。

【橋爪】それでは被災した人は救われない。せめて、繰り返し災害を受けた人たちにだけでも支援すべきだ。

【橋爪】今回の集中豪雨では、見逃すことのできない対応もいくつかあった。避難準備情報の発表決

定から市民に周知されるまで1時間もかかった。避難所へ行ったけれども避難所が開いていなかったところもあった。どうしてこういうことになったのか。検証すべきだ。

【村山市長】このたびの豪雨災害の対応については、市民の皆さんの安全安心を確保する上で、改善しなければならぬ課題があった。防災担当職員のスキルアップを図るため、大雨対応シミュレーション訓練等を行ったほか、情報伝達の迅速化を図るため、チェックシートの整備や役割分担の見直しなどを実施した。

【橋爪】先日、さわやか福祉財団のシンポジウムに参加し、「情報を甘く見てはならない」ことを学んだ。今回の豪雨では1万8609人に避難勧告が出たが、実際に避難したのは295人、1・5%だ。この数値は深刻だ。どう見ているか。

【馬場危機管理監】受け止め方は地域で様々だった。やや河川の水位が下がったこと、天候の回復状況がみられたことなどからの判断があったのではないかと思う。今後、的確な伝達の中で避難率の向上に努めていきたい。

## 脱原発の福島復興ビジョンに

### 村山市長も共感

【橋爪】福島県が「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会」をつくるという、復興ビジョンをまとめた。原発に近い自治体の首長としてどう受け止めているか。

【市長】このビジョンは、県民の皆さんが復興に向けて希望の旗を掲げ、一丸となって世界に誇ることができるよう復興を進めていくために策定された。原子力に依存しない社会を目指す、そのために再生可能エネルギーを飛躍的に推進するとしているほか、復興の主役は住民であり、誇りあるふるさとを再生を、一丸となって成し遂げようとする思いが込められている。まさに、人と人、人と地域、《裏面へ》



# 春よ来い 第一七二回 父の思ふ丑の地

岩室温泉に行ったらぜひ訪れてみたいと思つていたところがありました。近くに  
ある宝山酒造です。ここは父が長年にわたつて出稼ぎ先としてお世話になつていた造り  
酒屋さんで、その当時の写真はわが家に何枚も残されています。

訪ねたのは九月の土曜日。朝六時半頃、ホテルを出発しました。前日までとは打つ  
て変つて、この日は快晴、ひんやりとした空気がじつにさわやかです。北国街道を弥  
彦方面へと車を走らせました。岩室温泉病院を過ぎ、宝山酒造が近くなると、なぜか  
胸がドキドキしました。父の思い出の地に行くことがこんなにもうれしさを伴うもの  
だとは思つても見ませんでした。

酒蔵はすぐにわかりました。白い壁と黒い下見板がとてもきれいです。駐車場に車  
を止めて、宝山酒造の建物を眺めました。大きな樫が二本あり、そのそばには樫とほ  
ぼ同じ高さの灰色の煙突がすくくと建つていました。煙突には「地酒 宝山」と書か  
れています。「ここかあ、親父がいた酒屋は……」この煙突、どこかで見たな「そう  
思いながら車を下りました。

この時は、朝早い時間だったので、建物のまわりをゆっくりと歩いて見させていた  
できました。玄関のところの黒い柱に「電話三番」という小さな板が打ちつけられて  
います。石瀬簡易郵便局の方から見ると、瓶詰の工場の中も見えました。親父たちが  
寝泊まりしていた部屋はどこらへんにあつたのだろうかとおもひになりました。蔵人たちが  
休憩し、酒を飲んでいた部屋もあつたはずだ……。

一〇分ほど見学させてもらった後、ホテルに戻つたものの、なぜか落ち着きませ  
ん。それで思い切つて、宝山酒造へ電話してみました。「四〇年ほど前に上野武夫  
さんと一緒にお世話になつた橋爪の家の者ですが、蔵の中を見せていただけな  
いでしょうか」と言うと若女将らしい女性が快く、「どうぞ、お出でください」と言つて  
くださいました。

午前九時過ぎ、再び宝山酒造へ。受付の女性が私の到着を告げると、案内役として  
出てきてくださったのは白髪が素敵な女性でした。おそらく、先代の女将さんかと思  
います。

仕込み蔵の暖簾をくぐると左手に大きな和釜がありました。正面には酒を搾る機械  
がどんとすわっています。「昔は舟で酒を搾っていましたよ」と言うと、「蔵のな  
かで新しく入つた機械はこれぐらいなものですね」と言うと、「蔵のな  
答えが返ってきました。言われてみると、私が四〇年前、八王子市の小澤酒造で一冬  
だけ仕事をさせてもらった時に見たものとおとんど変わりません。そのせいでしょう  
か、蔵の中にいると懐かしさでいっぱいになりました。

蔵人たちが寝泊まりしたところも特別に見せてもらいました。酒造りの道具や機械  
が四〇年前とほぼ同じだけでもうれしかったのですが、風呂場も休憩所も親方さんの  
部屋も食堂もなんと昔のまんまだというのです。これには感動しました。

小さなホーローの風呂桶、畳が敷かれた休憩所、食堂の、茶わんや箸を入れる引き  
出しが付いた長いテーブルなどを見た時、「親父も、井戸尻の父ちゃんも、上野さん  
も、常山さんも、秦野さんも、みんなここにいたんだな」と思い、懐かしさとうれし  
さで胸がいっぱいになりました。父や井戸尻の父ちゃんや上野さんはすでに亡くなつ  
ています。でも、宝山酒造へ行ったら、この三人に会えたような気がしました。

《表面からの続き》地域と地域の再  
構築により新たな地域社会の再生を  
成し遂げようとするものであり、私  
も十分に理解し共感する。

【橋爪】現在停止中、検査中の柏崎  
刈羽原発を再稼働させるかどうかは  
原発立地自治体や県だけの問題では  
ない。市民の命と暮らしに責任を持  
つ隣接自治体の首長として政治的な  
見解を明らかにしていくべきだ。市  
長の見解はいかがか。

【市長】今回の福島第1原子力発電  
所の深刻な事故によって、改めてエ  
ネルギーの安定供給が、国民生活の  
利便性と社会経済活動の基盤を支え  
ていることを認識した。

また、同時にそのエネルギーを生  
み出す手段の一つである原子力発電  
施設の安全性についても、「絶対安  
全」は無いと強く感じている。

原子力発  
電という

「技術」  
が、社会に  
様々な恩恵  
や利便をも  
たらすと同  
時に、相反  
する危険性  
を有するこ  
とを、私た  
ちは現実の  
問題として  
考える必要  
がある。

まずは国と東京電力の責任で、今  
般の事故原因の究明や様々な対応の  
評価・検証がしっかりとなされ、原  
子力発電所に対する市民の不安が払  
しょくされるよう、安全対策と事故  
防止が確立されることを強く望んで  
いる。



## 初めて句会に参加



新潟日報  
の俳句選者  
で、「21世  
紀の風狂の  
俳諧師」と  
言われている  
中原道夫  
さんの句碑  
建立5周年  
を記念した

句会があるというので、24日、新潟市西蒲区へ  
行ってきました。句会があつた場所は新潟市西蒲  
区（旧岩室村）福井の旧庄屋、佐藤家です。

私が句会に参加するのは今回が初めて、記念す  
べき日ではあるのですが、これから句作をはじめ  
るためというより、よりよい文章を書きたいので  
勉強のために参加してきました。

選句、披講、選評のなかで言葉についていろ  
ろと学ぶことができました。言葉を選ぶ、どうい  
う助詞を使うか練る、漢字にするか「ひらがな」  
にするかなど、限られた時間の中で言葉と真剣に  
かつ丁寧に向き合っている点がすごいと感じまし  
た。（写真は中原道夫さんとともに句碑の前で）